

(2) 区のまちづくり目標

ア 区のまちづくり目標総括シート

区ごとに、

「取組みの方向性」

「区の人口・世帯動向」

を示すとともに、「取組みの方向性」に掲げる目標の実現に向けた

「現状と課題」

「今後の取組みの方向性」

をまとめるもの。

※「今後の取組みの方向性」には検討段階のものが含まれる。

※7区で共通する課題など全市的課題については、分野別目標の51施策の「施策評価」で整理されているため、「区のまちづくりの目標」では、区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

イ その他

平成29年度を「H29n」、平成29年を「H29」等と表記している。

歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区
～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心して暮らせるまち ○子どもが健やかに育つまち ○人を大切にし、みんながいいきいと活躍できるまち ○新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち ○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち
---------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	東区	40,553 (15.2%)	192,002 (71.9%)	34,448 (12.9%)	269,307
H17		38,850 (14.3%)	190,269 (70.2%)	42,065 (15.5%)	274,481
H22		41,272 (14.3%)	197,419 (68.4%)	50,090 (17.3%)	292,199
H27		43,380 (14.3%)	196,831 (65.1%)	62,089 (20.5%)	306,015
H29		44,284 (14.3%)	198,994 (64.2%)	66,584 (21.5%)	313,575
全市		202,247 (13.2%)	1,002,254 (65.2%)	332,685 (21.6%)	1,567,189
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H29人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	東区	6,124 (5.4%)	46,878 (41.0%)	114,366	
H17		8,125 (6.9%)	47,262 (40.1%)	117,887	
H22		10,653 (8.0%)	56,811 (42.7%)	133,024	
H27		13,590 (9.6%)	61,734 (43.6%)	141,506	
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災については、避難訓練、土のうの計画的な整備を継続し、様々な災害に備えた地域の避難体制を構築する必要がある。災害時避難行動要支援者については、H29年度から避難行動要支援者名簿を各校区の自治協議会、校区社会福祉協議会、民生委員・児童委員へ配布しており、名簿を活用した日頃の見守り活動や安否確認訓練等が円滑に実施されるよう、3者が連携した体制づくりが必要である。 ・地域防犯については、地域の安全・安心マップの継続的な更新や、多発しているニセ電話詐欺への対策として、警察と連携した市民啓発等の取組みを引き続き推進する必要がある。交通安全や飲酒運転撲滅運動は、飲酒運転による交通事故発生件数がH29年7件(前年比-1件)と微減しているが、引き続き取組みが必要である。 ・セアカゴケグモの個体数は、近年減少傾向にあったが、再び増加に転じ、出現場所は広範囲に拡大している。また、H29年7月に市内で初めてヒアリが確認され、市民への迅速な情報提供や相談対応を行った。引き続きセアカゴケグモ等の定期的な調査・駆除及び市民への啓発に取り組む必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市地域防災計画の見直しや避難行動要支援者名簿の配布を踏まえ、様々な災害発生時における高齢者や障がい者等に対する避難支援体制の構築や地域住民同士が助け合う仕組みづくりを支援する他、安全で快適な生活環境維持のための取組みを推進する。 ・地域における防犯活動を支援するとともに、飲酒運転撲滅運動等を地域と連携して推進する。また、放置自転車対策やごみの不適正排出の監視等モラル・マナーの向上にも取り組む。 ・交通ネットワーク整備や歩行者や自転車利用者の安全を確保する環境整備を推進する。 ・セアカゴケグモについては、市民からの相談対応を実施するとともに、学校や地域における出前講座等による啓発を積極的に行う他、市管理地における定期的な調査・駆除に引き続き取り組む。ヒアリについては、今後も情報収集に努め、市民に正確な情報提供や相談対応を行う。

子どもが健やかに育つまち	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待ハイリスク家庭への対応について、家庭問題の複雑・多様化がみられるため、よりきめ細やかな対応が必要である。 ・子育てに不安のある保護者に対し、育児相談や保健師による家庭訪問・母子巡回健康相談等を行った。また、地域子育て支援会議を校区毎に実施し、地域の子育てネットワークづくりや、子育て交流サロン・育児サークルの支援を行うとともに、子育て教室やこどもプラザ等において子育て支援の取組みを行った。今後も子育て家庭が孤立しないよう、地域・行政でともに見守り支える取組みを推進していく必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「要保護児童支援地域協議会」の構成団体と密に連携して、ハイリスク家庭への支援、児童虐待の予防・早期発見・再発防止に向けて取り組む。 ・「東区子ども・子育てセーフティネットワーク」により、学校のスクールソーシャルワーカー、産婦人科、小児科、子ども食堂等と情報共有・連携を図り、より一層の児童虐待防止、子育て支援に取り組む。 ・妊娠期から切れ目なく支援できるよう、ライフステージに応じた関係機関との連携や、育児サークル、子育て交流サロン等での支援を行う。また、子どもが安心して遊べる環境づくりやスポーツ等の体験ができる機会を提供する。

人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの活性化のため、自治協議会等の研修会、市民提案事業等への支援及び大学と連携し地域の課題等を調査・研究する事業等を行った。 ・地域活動に参加しない住民が多く、地域づくりの担い手が固定化・不足している中、地域の絆づくりがより一層必要となっている。 ・東区における外国人の人口は約 10,000 人と 7 区で最も多く、外国人居住者に対するサポート等「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指した取組みを推進する必要がある。 ・地域包括ケアシステムの推進のため、医療・介護・地域のネットワーク推進ブロック会議等を実施した。地域包括ケアシステムを次のステップに進めるには、市民への啓発や医療・介護・地域のより有機的な連携を強化する必要がある。 ・生涯にわたり元気で自立した生活を営むことができるよう、健康寿命を伸ばす取組みを推進する必要がある。また、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症に関する理解等地域の支援が必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・自治協議会等の地域活動や地域の担い手づくりを支援するとともに、企業、NPO、大学等様々な主体と、地域の未来を共に創る「共創」のまちづくりを推進する。 ・外国人と地域住民が共に暮らしやすい環境づくりに向け、情報発信の強化及び地域住民との交流促進等に取り組む。また、誰もが思いやりを持ち、みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサルデザインの理念に基づいたまちづくりを推進するため、外国人や障がい者等への支援充実を図る。 ・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステム東区スタイルのさらなる充実を図る等地域で支え合う取組みへの支援を行う。 ・健康寿命を伸ばすため、地域・各種機関・行政等が連携して、特定健診・特定保健指導の受診率向上に取り組むとともに、「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を推進するため、本人や家族の見守りや居場所づくり、認知症の早期発見・早期対応の体制づくりに取り組む。

新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・香椎駅周辺土地区画整理事業（平成 32 年度完了予定）が進む香椎駅周辺において、市民、地域、NPO、企業、行政で構成する「香椎賑わいづくりの会」を中心に、様々なイベント等を実施した。今後も界隈性を活かした香椎駅周辺のまちづくりを地域等と共働で推進する必要がある。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地等においても、市民、地域、大学、NPO、企業、行政が連携してまちづくりを推進する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業が進む香椎駅周辺は、市民、地域、NPO、企業、行政等が連携を図りながら、拠点地域の形成に取り組む。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地は、市民、地域、大学、NPO、企業、行政が連携してまちづくりを推進する。

歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「志賀島活性化構想 2015」の推進のためには、引き続き地域への支援が必要である。また、志賀島等東区の魅力を発信するため、SNS 等を活用した情報発信の充実を図る必要がある。 ・立花山・三日月山については、登山人口の増加から登山道の保全や登山情報発信等のニーズが高まっており、引き続き登山道の保全・整備や市民への情報提供が必要である。 ・「第 1 回なみき芸術文化祭」を開催しており、今後もなみきスクエアを核とした、芸術文化活動を推進する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・東区のシンボルとなる行事や歴史・文化的な資源、水辺や緑等の自然環境、志賀島等の地域の魅力・特色を生かしたまちづくりへの支援や情報発信を行う。 ・「なみき芸術文化祭」の開催等なみきスクエアを核として、にぎわいにあふれ、多くの人が交流し、芸術文化を感じられるまちづくりを推進する。

お互いが支え合い、安心して人が暮らし、 歴史と伝統が息づくまち・博多区

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち ○安全で安心して暮らせるまち ○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち
---------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	博多区	22,249 (12.3%)	133,247 (73.8%)	24,958 (13.8%)	180,722
H17		22,015 (11.6%)	138,342 (73.1%)	28,898 (15.3%)	195,711
H22		21,276 (10.4%)	148,740 (72.8%)	34,371 (16.8%)	212,527
H27		21,491 (10.0%)	151,343 (70.4%)	42,134 (19.6%)	228,441
H29		21,986 (9.8%)	156,566 (70.1%)	44,839 (20.1%)	236,859
	全市	202,247 (13.2%)	1,002,254 (65.2%)	332,685 (21.6%)	1,567,189
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H29人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	博多区	6,794 (7.5%)	48,177 (53.1%)	90,776	
H17		8,286 (8.4%)	54,166 (55.0%)	98,573	
H22		11,512 (9.3%)	79,610 (64.2%)	124,070	
H27		15,030 (10.8%)	92,551 (66.8%)	138,629	
	全市	80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単身世帯の割合が指定都市で最も高い福岡市（H27 国調：49.7%）にあつて、博多区は7区で最も高い（同：66.8%）。また、5年間の現住所居住率が46.7%（H27 国調）と転出入者が多く、共同住宅（マンションやアパートなど）に住む世帯割合が87.6%（H27 国調）と都市型の地域であり、地域コミュニティの希薄化が見受けられる。 ・高齢者が増加しており、特に単身高齢者世帯が急増している。（H22 国調：11,512人→H27 国調：15,030人 5年間で約30%増） ・超高齢社会の到来に備え、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるための体制（地域包括ケアシステム）づくりが求められている。 ・核家族化・少子化が進む環境の中で、育児不安を抱えている母親が増えており、安心して子育てができる環境づくりが求められている。 ・博多区は特定健診受診率が7区で最も低く（H29 n速報値：博多区 20.9%、福岡市 24.7%）、健康意識の醸成や健康寿命の延伸に向けた積極的な取り組みが求められている。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との「共創によるコミュニティづくり」を進めるため、住民同士の交流促進や、自治意識の醸成を図る。また、地域の特色を生かした魅力ある地域づくりの支援を継続していく。 ・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるための体制（地域包括ケアシステム）の構築を目指し、医療と介護の連携強化を図るとともに、地域において住民による支え合い助け合いの仕組みづくりを推進する。 ・子育てに関する相談・支援体制を強化し、児童虐待防止の取組みを進める。また、子育て支援コンシェルジュ等の活用により保育施設等の待機児童の解消を図る。 ・若い頃からの健康づくりや、年代に応じたロコモ予防・認知症予防の取組みを推進する。

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に開設する指定避難所として、博多区には一時避難所 38 箇所、収容避難所 30 箇所がある。突発的な災害や大規模な災害では、市職員や施設職員だけでは迅速に避難所を開設できないことも想定される。このような場合に対応するため、避難所の開設運営は、市職員はもとより、地域住民、自主防災組織、ボランティア等の相互協力により行われることが重要となる。 ・交通事故発生件数は 7 区で最も多く、犯罪認知件数は、中央区に次いで 2 番目に多くなっており、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> *交通事故発生件数(H29)：2,366 件（前年比 88 件減） *犯罪認知件数(H29)：3,441 件（前年比 577 件減） ・自転車の放置台数が 7 区で最も多く、博多駅周辺や中洲地区に多く見られる。 <ul style="list-style-type: none"> *自転車の放置率(H29.10)：3.4%（前年同月比 1.5ポイント減） ・生活道路について、損傷が激しい箇所数は 7 区で最多となっており、博多区に約 4 割が集中していることから、計画的な維持修繕が必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における自主防災活動の活性化を図るため、博多消防署と連携した防災訓練、地域の防災リーダーを対象とした防災研修や校(地)区防災研修会を実施する。また、自主防災活動に使用する物品類の支援を行う。 ・博多警察署、市民局と連携し地域の防犯リーダーに対する防犯研修会、防犯教室の開催、交通安全教室の開催や地域への物資支援、情報提供など地域の防犯活動の支援、交通安全思想の普及を行う。 ・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付、歩行空間の整備や交通安全施設の整備など、安全で快適な生活基盤の整備を実施する。 ・博多駅周辺や夜間の中洲地区において自転車利用者への指導・啓発や放置自転車の即日撤去により、放置自転車を減少させる。また、既設駐輪場の利便性向上や新たな駐輪場の整備を進める。 ・「福岡市生活道路アセットマネジメント基本方針」（H26.3 策定）に基づき、施設の点検・修繕を計画的に行うことで、施設の延命化を図るとともに、費用対効果の高い施設の維持・管理に取り組む。

歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・寺社や名所旧跡、伝統ある祭り、伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在する博多部において、これらを生かした事業に取り組み、その魅力を大きく高めてきた。また、九州新幹線全線開通以降、H28 の KITTE 博多、JRJP 博多ビルに至る一連の再開発や、エリアマネジメント団体による賑わいの創出などにより、来訪者が大きく増加している。今後も、地域と連携し、回遊性の向上や歴史文化資源の魅力の発信力強化を図っていく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> *JR 博多駅乗降者数(H28)103,470 千人（前年比 3,235 千人増） *H29 博多ガイドの会案内人数 定点ガイド 7,292 人、派遣ガイド 755 人、地域密着型企画ガイド 728 人 *博多ライトアップウォーク延べ入場者の推移 H25：91,101 人、H26：124,521 人、H27：116,214 人、H28:113,610 人 H29：120,724 人
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や伝統文化を生かした博多旧市街ライトアップウォークの開催や、歴史的景観と調和の取れた道路整備など博多旧市街プロジェクトを推進し、集客力の向上や回遊性の向上を図る。 ・博多ガイドの会によるまち歩き事業の充実や、博多部の情報発信を行うなど、地域・企業・行政が連携し魅力の向上や地域の活性化に取り組む。

人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」
 ～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～

- 取組みの方向性
- 自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち
 - 思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち
 - 誰もが安心して暮らせるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	中央区	16,380 (10.9%)	115,013 (76.2%)	19,478 (12.9%)	151,602
H17		17,043 (10.5%)	122,962 (75.4%)	22,974 (14.1%)	167,100
H22		17,562 (10.1%)	127,849 (73.8%)	27,724 (16.0%)	178,429
H27		19,531 (10.5%)	133,279 (71.5%)	33,581 (18.0%)	192,688
H29		19,808 (10.4%)	134,882 (70.8%)	35,808 (18.8%)	196,787
	全市	202,247 (13.2%)	1,002,254 (65.2%)	332,685 (21.6%)	1,567,189
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H29人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	5,683 (6.9%)	47,521 (57.6%)	82,522		
H17	6,848 (7.4%)	54,284 (59.0%)	91,929		
H22	9,473 (8.9%)	67,499 (63.2%)	106,825		
H27	11,893 (10.2%)	73,677 (63.5%)	116,063		
	全市	80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市における入込観光客数は、H23(1,678万人)からH28(2,050万人)の5年間で372万人増加しているが、そのうち約65%は日帰り客であるため、都心部の魅力を生かした回遊性の向上を図る必要がある。また、水上公園のオープンやビルの建て替えなど天神ビッグバンが進行中であり、こうした動きを踏まえ、今後も天神地区の持続的発展に向けた取り組みが必要である。 ・地域のまちづくりの継続支援とともに、地域特性を生かした誰もが魅力を感じて楽しく回遊できる「おもてなし」の道づくりが必要である。 ・H29年10月に九州大学六本松キャンパス跡地に住宅や商業施設、福岡市科学館がオープンし、中央区の新たなにぎわいの核となっている。 ・セントラルパーク構想の動きを踏まえ、福岡城跡や鴻臚館跡等の歴史・文化資源について、観光資源としての魅力を向上させる必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> *H26.6 福岡城跡整備基本計画策定、セントラルパーク構想策定 *H27.3 国史跡鴻臚館跡整備基本構想策定 *H28.3 旧大名小学校跡地まちづくり構想策定
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「We Love 天神協議会」との共働による、まちのにぎわい創出や魅力向上を図る。 ・地域の個性を活かしたまちづくりを進めるために、地域のまちづくり団体等の活動を支援するとともに、魅力ある道路整備の推進を図る。 ・福岡城跡や舞鶴公園の魅力を観光資源として活用し、また、福岡城さくらまつり、福岡城・鴻臚館まつりの充実を図るとともに、スマートフォンアプリを活用する等幅広い層の地域住民や来街者に歴史・文化資源の魅力をPRしていく。

思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・転出入者が多く、地域活動の担い手が不足・固定化の傾向が見られる。 ・区の高齢化率は約 18.8% (H29.10) であり、高齢者単独世帯は 10.2% となっており、上記「区の人口・世帯動向」からも増加傾向にあるため、高齢者等を地域で支える仕組みの構築が急務であり、健康維持や日常からの支援体制の確立が必要。 ・転出入者が多く、孤立しがちな子育て家庭の負担感・不安感の解消を図るために、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが必要。 *H28.4 福岡市立中央児童会館のリニューアルオープン
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館じょいんとプロジェクト（公民館とNPO等が共働で実施する事業）や公民館フェスタ、企業や専門学校等の地域活動への参加促進、地域デビュー応援事業等により、顔の見える関係づくりを進めるとともに、新たな担い手の発掘を支援する。 ・住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供されるシステムづくりを推進。 ・アラ還世代（55～69歳）や若い世代（20～30歳代）の健康に対する啓発活動の実施とともに、介護予防の拠点づくり事業（よかトレ実践ステーション創出）のさらなる推進。 ・母子何でも相談、安心子育て応援セミナー等の実施や子育て応援ホームページによる適切な情報発信により、子育て支援の充実を図る。

誰もが安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・警固断層を震源とした大規模地震や集中豪雨等に対する自助・共助の自主防災力のさらなる向上が必要である。 ・H29における中央区の街頭犯罪件数は、減少傾向にあるものの 1,470 件と高い水準となっているため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動を促進し、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要。 ・天神地区を中心に放置自転車撤去の強化を図ってきた結果、放置自転車は減少傾向にあるものの、曜日や時間帯によっては未だ違法駐輪が見受けられる。 ・食中毒の危険性がある食品の喫食や美容施術のトラブルが見られ、消費者側に正しい知識が十分に浸透していない状況にある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における防災・防犯等に関する自主的取り組みをより活発にするため、安全安心をテーマにした参加体験型イベント「中央区安全・安心フェスタ」を地域や企業などと連携し開催するとともに、地域主体の避難所運営の体制づくりの支援や、避難所開設・運営訓練を実施する。 ・各校区・地区住民、企業、区役所、警察が連携し、各校区・地区において提起される問題や課題の解決に向けた取り組みを実施し、犯罪のない環境づくりを推進。 ・道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため、放置自転車対策として日曜・祝日や夜間 19 時以降の撤去を実施するとともに、民間活力による天神地区路上駐輪機の更新、路外駐輪場整備に伴う路上駐輪機の一部撤去や六本松駅駐輪場整備など、人と自転車が共生できるまちづくりを推進。 ・食と美容の安全・安心プロモーションを活用した市民啓発を推進。

<p>いきいき南区 暮らしのまち ～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～</p>	
<p>取組みの方向性</p>	<p>○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合う暮らしやすいまち</p> <p>○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち</p> <p>○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられる うるおいとやすらぎのあるまち</p> <p>○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち</p>

区の人口・世帯動向						
		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数	
H12	南区	35,937 (14.8%)	174,163 (71.7%)	32,830 (13.5%)	243,039	
H17		34,007 (13.8%)	173,480 (70.6%)	38,204 (15.5%)	246,367	
H22		33,528 (13.6%)	167,308 (68.0%)	45,186 (18.4%)	247,096	
H27		34,626 (13.7%)	163,562 (64.5%)	55,430 (21.9%)	255,797	
H29		35,157 (13.7%)	163,393 (63.5%)	58,752 (22.8%)	259,478	
全市		202,247 (13.2%)	1,002,254 (65.2%)	332,685 (21.6%)	1,567,189	
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H29人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)	
H12	南区	6,613 (6.3%)	42,016 (40.0%)	104,999		
H17		7,514 (6.9%)	43,813 (40.3%)	108,734		
H22		9,892 (8.8%)	46,220 (41.2%)	112,306		
H27		13,798 (11.5%)	51,553 (43.1%)	119,487		
H29		13,798 (11.5%)	51,553 (43.1%)	119,487		
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824		

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合う暮らしやすいまち	
<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進行する中、母親が子育てに不安・負担を感じて孤立化することがないよう、安心して生み育てられるための施策や、子どもが健やかに育つための施策が求められている。 ・南区は、高齢化率が20%を超える校区が過半となっており、高齢者単独世帯数の割合が11.5% (H27) と7区中最も高い。高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう支援する施策がますます重要である。 ・高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療や介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が重要である。 ・地域活動の担い手不足が顕在化しており、地域のネットワークや多様な主体が持つ資源を、地域課題の解決や活性化に活かす共助の取り組みが必要となっている。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新米ママ向けの親子セミナー等や、発達が気になる子どもと親が集えるサロンの開設など、育児不安を軽減し、孤立化や虐待への移行を予防するとともに、子育て情報の提供や、子どもの正しい生活リズムの普及啓発などに取り組む。 ・健寿社会の実現に向け、地域、専門職等の多様な主体による「よかトレ実践ステーションの創出」などの健康づくり・介護予防の取り組みを進める。また、高齢者の見守りなどの生活支援の充実を図る。 ・在宅医療を推進するため、区医師会などの関係団体と連携し、病診連携の体制の推進、区民啓発などに取り組む。 ・「認知症予防」「初期支援（初期集中支援チーム）」「認知症になっても安心なまちづくり（認知症サポーター養成講座）」など、認知症に係る施策に幅広く取り組んでいく。 ・企業や大学等の多様な主体が有する、人やモノなど様々な資源をまちづくりに活かし、地域コミュニティの活性化を図る。

みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・南区居住者の校区における自主防災組織の認知度は25.9%、また、自分が住んでいる自主防災組織の活動に参加したことがない人が83.6%と、無関心層の地域自主防災活動への参加促進が課題である。（平成29年度市政に関する意識調査：行政区別(南区)） ・南区では、刑法犯認知件数（平成29年中2,011件）は年々減少しているものの、犯罪の少なさに満足している住民の割合は39.3%（平成29年度市政に関する意識調査：行政区別(南区)）にとどまっており、より一層の地域防犯力の向上が求められている。また、自転車のモラルマナーについて悪いと感じている市民は76.2%（同：市全体）と高く、自転車を中心とした交通マナーの改善が急務となっている。 ・急増する外国人居住者に適切に対応するため、平成29年度に設置した「南区居住外国人生活支援推進協議会」の連携のもと、外国人居住者に対する総合的な生活サポート体制を推進することが必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における避難行動要支援者をはじめとする住民の安全確保のため、地域と共働で防災意識の醸成、組織や従事者の育成、訓練などに取り組むとともに、ワークショップやセミナーなどを通じて先進的な地域の取組み事例を紹介し、校区間の情報共有を図り、全体の意識向上につなげる。 ・警察などとさらなる連携強化を図り、地域ニーズに合わせた地域防犯活動の支援や、性犯罪防止、自転車交通安全教室や交通安全運動などの啓発活動に取り組む。 ・日本語学校の留学生等を対象に、「ごみの分別」「自転車の交通マナー」「税」などについて、一体的かつ効率的な出前講座を実施するとともに、定住外国人を対象に「暮らしやすい生活環境」に関するニーズ調査を行うなど、外国人の生活全般に係る支援を充実させる。

那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・南区の魅力である水辺や緑などの身近な自然に広く親しんでもらう事業を実施し、心身の健康づくりや地域活性化などにも活かしていくことが重要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・鴻巣山での自然体験ワークショップやおでかけマップの配布等を通じて、地域の特色・魅力について情報発信を行うとともに、南区の景観の大きな特色であるため池を活かしたイベントなどで賑わいを創出し、出かけたくなるまちづくりを推進する。

大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年12月に区及び周辺部の7つの大学と包括連携協定を締結。平成29年度には7大学合同イベント「南区こども大学」「南区大学マルシェ」を開催。これを契機として、より一層大学と地域の交流・連携事業数を増やしていくことが必要である。（H29n:12件） *「南区こども大学2017」（全17講座開講、参加者数871人） *「南区大学マルシェ」（全9ブース出展、来場者数1,200人） ・西鉄天神大牟田線から遠い区西南部地域では、公共交通の利便性向上など、地域の活性化に向けた取り組みが求められている。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「南区こども大学」や「南区出前講座(大学版)」などの実施により、地域に開かれた魅力ある大学づくりを進めるとともに、学生の地域活動への自主的な参画を支援し、大学を活かした共創のまちづくりを推進する。 ・区西南部地域を中心としたバス交通の円滑化を図るため、既存バス路線における交差点改良やバスカットの整備に取り組む。 ・地域拠点「長住・花畑地域」における地域ニーズや課題等を整理し、地域特性に応じた活性化策について検討する。 ・那珂川町との交流事業や、桧原桜を活かしたまちづくり等を推進する。

<p>豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し，地域で支え合う安全で安心なまちづくり～</p>	
<p>取組みの方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心して暮らせるまち ○地域で支え合う，ぬくもりのあるまち ○地域と大学が共生するまち ○自然環境を大切にすまち

区の人口・世帯動向						
		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数	
H12	城南区	16,704 (13.3%)	92,827 (73.8%)	16,212 (12.9%)	126,468	
H17		16,281 (12.7%)	92,145 (72.0%)	19,483 (15.2%)	128,663	
H22		16,495 (12.9%)	88,231 (69.1%)	22,940 (18.0%)	128,659	
H27		16,837 (13.0%)	84,258 (65.2%)	28,215 (21.8%)	130,995	
H29		16,732 (12.9%)	82,854 (64.0%)	29,973 (23.1%)	131,242	
全市		202,247 (13.2%)	1,002,254 (65.2%)	332,685 (21.6%)	1,567,189	
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H29人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査，福岡県人口移動調査）	
H12	3,381 (5.7%)	28,349 (47.9%)	59,194			
H17	4,132 (6.8%)	28,615 (47.2%)	60,655			
H22	5,275 (8.5%)	29,678 (47.7%)	62,189			
H27	7,206 (11.2%)	31,533 (48.9%)	64,511			
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824		

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち	
<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樋井川水系の河川氾濫による浸水被害対策については，対象校区での水害避難ガイドブックの作成，県の樋井川浚渫工事等により一定の整備がなされている。また，土砂災害対策については，土砂災害警戒区域（土石流）を有する4校区・地区を対象として，土砂災害に関する講習会，災害図上訓練及び避難行動訓練を実施している。また，当該4校区・地区が自主運営による連絡会議を開催するなど，地域住民の土砂災害対策への機運が高まっている。 ・このように，地域住民の災害に対する危機意識は高まってきているが，避難者の受け皿である避難所の開設・運営については，地域・行政が共働した運営が確立されておらず，災害時の地域連携の体制も整っていないため，地域の実情に合った災害に関する体制整備を図る必要がある。 ・城南区では全市平均と比べても年少人口の割合が低く，少子化が進んでおり，安心して生み育てられる環境づくりが必要である。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自主防災力強化（自助，共助力強化）のため，自主防災訓練や地域防災リーダーの養成を通じて地域住民による避難所開設・運営力の向上を推進する。また，避難所ごとの運営マニュアルの策定を進め，地域・施設管理者・行政が一体となった避難所運営の体制整備を行うとともに，城南区自主防災組織連絡会を設立し，防災関係情報の共有，意見交換や災害時の地域連携の推進を行う。 ・子育て世帯を対象に，子の月齢に応じた子育て情報やトピックスなどを配信する携帯用メールマガジン「子育てにっこりんメール」において，アンケートにより子育てに関するニーズを把握し，必要な情報を発信するなど，安心して生み育てられる環境づくりを推進する。

地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・城南区では全市平均を上回る高齢化の進展により、独居や認知症などの高齢者問題への取組みなど、高齢になっても住み慣れたまちで自立した生活を安心して続けられる地域で支え合うまちづくりが求められている。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢化社会に対応するため、地域活動を担う人材の育成支援、地域の見守りネットワークの強化など、地域で支え合うまちづくりを推進する。 ・住民の健康寿命の延伸のために、介護予防や健康づくりに取り組む人を増加させることを目的とした事業を体系的に展開する。

地域と大学が共生するまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・区内にある福岡大学、中村学園大学の学生数は約2万4千人で、区人口の約2割に相当する。区と大学との良好な関係を継続的に向上させていくとともに、大学の高度な教育研究機能や設備、専門的知識を持つ人材などのリソースを地域課題の解決に生かす取組みが求められている。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所と大学の連携や住民と学生の交流を促進するとともに、地域における活動団体等も含めたネットワークを引き続き維持し、多様な主体が地域課題に取り組む共創によるまちづくりを推進する。

自然環境を大切にするまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・区域を貫流する樋井川、区域の南部に位置する油山など、市民自らが自然環境を守り育てる活動を支援し、住みやすい環境づくりに生かすことが必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・樋井川の地域活動団体や油山市民の森管理事務所と連携し、身近な自然の良さをPRするなど、区民の環境保全意識の向上を図り、自然環境を大切にするまちづくりを推進する。

ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち

取組み
の
方向性

- お互いが支え合い安心して暮らせるまち
- 早良区の特性を生かした魅力あるまち
- 地域の魅力を生かしたまち
 - ◆～活力とにぎわいのあるまち～ 北部
 - ◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部
 - ◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部

区の人口・世帯動向

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	早良区	32,337 (15.9%)	145,141 (71.5%)	25,570 (12.6%)	203,656
H17		31,417 (15.0%)	145,996 (69.8%)	31,730 (15.2%)	209,570
H22		31,510 (14.9%)	142,113 (67.4%)	37,234 (17.7%)	211,553
H27		32,653 (15.1%)	137,689 (63.6%)	46,110 (21.3%)	217,877
H29		32,784 (15.1%)	135,460 (62.3%)	49,113 (22.6%)	218,779
全市		202,247 (13.2%)	1,002,254 (65.2%)	332,685 (21.6%)	1,567,189
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H29人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査，福岡県人口移動調査)
H12	4,687 (5.8%)	26,881 (33.0%)	81,425		
H17	6,181 (7.1%)	30,195 (34.9%)	86,621		
H22	7,467 (8.3%)	32,128 (35.6%)	90,134		
H27	10,299 (10.8%)	36,104 (37.8%)	95,617		
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い安心して暮らせるまち

現状と
課題

- ・熊本地震や九州北部豪雨の教訓から、災害時避難行動要支援者への支援や、各校区における避難所運営など、より実践的な対応の検討が求められている。
- ・核家族化，地域コミュニティにおける，住民同士のつながりの希薄化などの社会状況の変化により，地域において子育て家庭が孤立化している。子育てへの不安感を軽減し，児童虐待，発達障がいなど，支援を要する子どもや家庭をめぐる問題に対応する必要がある。
- ・子育て世代包括支援センターが設置され，保健所窓口での母子健康手帳の交付，妊婦への面接がはじまり，その中で判明した支援の必要な妊婦について，関係課と協力しながら進めていく必要がある。
- ・健寿社会の実現に向け，市民の主体的な健康づくりを進めていく必要がある。
- ・健康づくりに役立つレシピを公募し作成した「サザエさん通り食育レシピ集」を有効に活用し，食育を推進していく必要がある。
- ・早良区のH28n 特定健診受診率は，市内で最も高い25.1%であるが，国が設定した目標値(60%)は達成していないため，受診率向上の啓発活動を強化する必要がある。
- ・超高齢社会の到来に備え，地域包括ケアの推進が必要である。H29nには，公民館・地域と専門職の共創による「介護は突然やってくる！親子で考える介護の備え講座」を9公民館で開催した。また，講座を開催した公民館の実践報告の場である「早良いきいきサミット」を開催し，高齢者を地域で支える仕組みづくりにおける公民館の役割の認識は進展しているが，市民に向けた更なる介護予防や在宅医療・介護に関する普及啓発が求められている。
- ・団塊世代の大量退職期の到来を契機に，定年退職後に必要な情報提供を行うとともに，地域活動に参加しやすいきっかけづくりにより，地域活動の担い手不足解消などへつなげていくことが求められている。

今後	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の要支援者への働きかけや、実践的かつ子育て世代や女性の視点等に着目した避難所運営などの研修及び訓練を各校区で開催する。 ・発達が気になる子どもと、その保護者のための子育てサロン「もちもち」の開催や、子育て情報誌・子育て情報マップの配布、「さわらっ子育て応援ホームページ」での情報発信などにより、子育て世代の不安を軽減するとともに、子育てを応援する。また、児童虐待防止の研修や、子どもが様々な暴力から自分の心とからだを守る「暴力防止プログラム（CAP）」を実施し、児童虐待防止のための啓発を行う。 ・健康課に母子保健係が新設されるため、関係各課との連携をより強固に行い、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援を行う。 ・早良区南部地域の自然や食資源と医療・介護ネットワーク等を活用したツーリズムを企画・実施し、早良区南部地域の魅力発信と市民の主体的な健康づくりの機運醸成を図る。 ・「サザエさん通り食育レシピ集」のメニューを飲食店で提供してもらうことにより食育に関する認知度を高め、より効果的に食育を推進していく。 ・特定健診の受診率向上のため、区役所関係課のプロジェクトチームで協力しながら受診率向上に向けた活動を引き続き行っていく。 ・「介護は突然やってくる！親子で考える介護の備え講座」を2年間、15公民館で開催し、小学校区レベルで地域包括ケアに取り組む機運を醸成する。また、講座だけでなく、あらゆる機会に、更なる介護予防や在宅医療・介護に関する普及啓発を実施する。 ・シニア世代向けセカンドライフの応援の一環として「シニアのための智恵袋」を活用した地域活動への関心を高める情報提供を行うなど、地域の担い手確保に取り組む。
----	---

早良区の特性を生かした魅力あるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・早良区を代表する脊振山系や室見川などの豊かな自然を保全し、次世代へ引き継いでいく必要がある。 ・H24.5に地域の要望のもと誕生した「サザエさん通り」を生かしたまちづくりや、南部の“実りの秋”の魅力発信をする「さわらの秋」など、早良区の魅力を生かした地域活性化に取り組む必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・脊振クリーンアップ登山や室見川水系一斉清掃などの活動を通し、市民の環境保全意識の向上を図る。 ・「サザエさん通り」の認知度向上やさらなる地域活性化のため、H25nに策定した構想に基づき、ハード・ソフト両面からの施策の充実や広報の強化を官民共働で行う。 ・「さわらの秋」事業をはじめとして、早良区の魅力について、区内外の住民への認知度を高めるための広報戦略や地域資源のブランド化に取り組む。

地域の魅力を生かしたまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・早良区南部地域は豊かな自然や産業、歴史などの地域資源に恵まれる一方、少子高齢化や人口減少など、地域の活力低下が懸念されており、地域や行政が共創で南部地域の魅力を生かしたまちづくりを推進する必要がある。 ・早良区中南部地域における、区レベルの行政サービスを補完する施設として、地域交流センターの早期整備を図る必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOとの共働事業提案制度を活用し、南部地域における交流人口拡大に向けた取組みを地域内外の市民や団体・企業と共に検討し、地域特性に応じた推進手法で実践していく。 ・地域との共創により、主基斎田（すきさいでん）90周年事業を開催し、100周年に向けた機運醸成を図る。 ・地域、団体、行政等が一体となった早良南部地域の課題解決に向けた取組みである「早良みなみ塾」を通し、自治協間の連携強化、南部コミュニティの一体化、人材・資源の活用促進を図るとともに、地域の魅力を生かした地域主体の取組みを支援する。 ・中南部地域においては、地域交流センターの整備進捗に応じ、地元への適切な情報提供や意見調整を行う。

自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区
 ～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○自然を生かし、環境にやさしいまち ○にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち ○大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち ○子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち
---------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	西区	26,932 (16.2%)	115,406 (69.3%)	24,275 (14.6%)	166,676
H17		28,347 (15.9%)	120,391 (67.3%)	30,026 (16.8%)	179,387
H22		30,181 (15.6%)	126,224 (65.4%)	36,540 (18.9%)	193,280
H27		31,405 (15.3%)	129,439 (63.0%)	44,772 (21.8%)	206,868
H29		31,496 (15.1%)	130,105 (62.2%)	47,616 (22.8%)	210,469
全市		202,247 (13.2%)	1,002,254 (65.2%)	332,685 (21.6%)	1,567,189
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H29人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	西区	3,413 (5.5%)	16,385 (26.6%)	61,579	
H17		4,375 (6.4%)	19,213 (28.1%)	68,254	
H22		5,723 (7.3%)	25,157 (32.3%)	77,880	
H27		8,216 (9.3%)	32,347 (36.8%)	88,011	
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然を生かし、環境にやさしいまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然をもつ西区では、都市と自然の近接という特性を活かしたまちづくりが必要。 ・地域での環境活動の活発化には、活動のリーダー的役割を担う人材が不可欠であるが、その人材が不足。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成講座による人材の発掘・育成を図るとともに、活動のノウハウ、情報提供等の支援などにより、自立した環境活動を促進。

にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校区や地域単位での夏祭りや地域カフェ等の開催、また地域デビュー事業等によって、地域の活性化に対する取り組みが増えているものの、市街化調整区域では、人口の減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの問題が顕著な地域もある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域のまちづくり活動支援や関係局と連携した協議を継続的に行うとともに、地域だけで実現・実行が困難なまちづくりの取組みについては、地域主導を維持しつつ、支援・助言を実施。

大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と九州大学が直接、連携・交流できる仕組みや関係性が少しずつ構築されてきているが、さらに大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かすことが必要。 ＊九州大学と地域との連携・交流事業数 H29n：51 事業
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館に九大の学生団体の情報を提供し、大学生と地域との自主的な交流事業開催を促進。 ・九州大学及び地域の魅力づくりや活性化に取り組む学生団体と地域とをつなぎ、地域の特性にあったまちづくりに取り組む。

子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校区に自主防災組織が立ち上げられ、校区・地域によって自主的な防災訓練が実施されているが、それらの組織が災害時、実際に機能し対応できる体制となるよう、現行の校区防災計画を改定してもらう必要がある。 ・地域住民の安全で安心して暮らせるまちづくりを実現していくためには、地域の自主防犯組織の活動や、警察及び区役所などの関係機関が連携して取り組む必要がある。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在モデル校区として改定を進めている今宿・金武・福重校区に続き、H30 年度にはさらに校区を広げ校区防災計画の改定を支援予定。校区防災計画策定後の校区防災訓練については、その活動が形骸化しないよう評価や見直しを呼びかけていく。 ・地域・警察・行政で情報共有を行うとともに、地域へは、活動物資や青色回転灯パトロールカーの補助等の支援を行い、市民の防犯意識の向上と街頭犯罪の抑止を進め、安全で安心して暮らせるまちづくりを実現する。

福岡市市民満足度意識調査結果（平成29年度）

（単位：％）

項目	満足度			重要度		
	満足	不満	どちらでもない	重要	重要でない	どちらでもない
1-1 ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり	48.2	27.3	22.3	79.1	8.2	8.0
1-2 人権尊重のまちづくり・男女共同参画の推進	42.0	29.6	25.8	73.2	11.5	9.6
1-3 健康づくりや医療の充実、生涯元気に活躍できる社会づくり	46.3	32.2	19.3	84.0	5.9	4.9
1-4 心豊かに文化芸術を楽しむまちづくり	48.8	24.8	24.4	63.6	20.0	12.8
1-5 スポーツ・レクリエーション活動の振興	43.2	30.4	24.4	68.9	16.0	11.2
1-6① 高齢者が安心して暮らせるまちづくり（高齢者福祉の充実）	35.3	42.6	20.1	89.3	4.2	3.3
1-6② 障がいのある人が安心して暮らせるまちづくり	31.2	40.1	25.9	84.9	4.8	6.1
1-7 子どもの健やかな育ち・安心して生み育てられる社会づくり	35.4	41.6	20.4	87.9	3.7	4.8
1-8① 学校教育の推進、教育環境の整備	34.7	40.0	22.0	86.5	3.9	5.8
1-8② 子ども・若者の健全育成	28.8	39.8	27.8	82.6	6.0	7.8
2-1 地域コミュニティの活性化	35.0	30.6	31.3	62.1	19.2	14.2
2-2 公民館など地域コミュニティの活動の場づくり	42.1	26.1	29.5	61.9	19.1	15.3
2-3 支え合いや助け合いによる地域福祉の推進	33.0	35.2	29.5	75.8	10.3	10.4
2-4 NPOやボランティア活動の活性化	25.9	29.7	41.0	58.0	18.0	19.7
2-5 ソーシャルビジネスなどによる社会課題解決の推進	22.9	29.0	41.2	51.7	17.8	22.4
3-1 災害に強いまちづくり	39.3	40.0	17.0	90.5	2.3	2.3
3-2 安全で快適な生活基盤の整備	44.3	39.3	13.6	89.1	3.5	2.5
3-3 良質な住宅や住環境の整備	34.1	35.5	25.8	76.5	9.3	8.3
3-4 モラル・マナーの向上	24.6	63.0	9.4	87.2	5.2	3.3
3-5 犯罪のない安全で住みよいまちづくり	32.9	53.0	10.7	92.0	1.5	1.9
3-6 安全で良質な水の安定供給	67.6	15.0	14.2	89.0	3.3	2.9
3-7 日常生活における安全・安心の確保	50.5	26.5	19.1	85.8	4.7	4.5
4-1 地球温暖化対策の推進、再生可能エネルギーの導入	29.6	36.0	29.7	73.4	10.1	10.9
4-2 ごみ減量・リサイクルの推進	50.9	26.3	19.4	82.2	6.3	6.6
4-3 生物多様性の保全とみどりの創出	40.5	27.3	28.0	69.8	11.3	13.5
4-4① 生活の利便と豊かな自然がコンパクトにまとまったまちづくり	51.1	24.5	21.1	69.7	13.2	12.6
4-4② 市街化調整区域や農山漁村地域の活力向上	31.8	25.9	36.8	60.3	13.5	19.4
4-5 鉄道・バスなどの公共交通を主軸とした交通体系づくり	48.8	38.3	10.7	84.1	6.7	5.6
4-6 公共空間や公開空地などを活かした、都心部の魅力向上	41.1	28.3	26.7	61.2	16.0	17.7
5-1 観光資源となる魅力の磨き上げ（観光・集客の推進）	42.2	29.3	24.9	60.6	19.6	15.0
5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり	48.8	18.5	30.1	53.4	23.8	18.9
5-3 来街者にやさしいおもてなし環境づくり	40.5	23.4	32.6	56.8	20.2	18.5
5-4 国際会議や展示会などの誘致、コンベンション機能の強化	35.8	22.7	37.1	49.1	22.6	22.6
5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興	38.3	22.7	35.0	50.6	23.1	21.5
5-6 観光プロモーション活動（宣伝、広報活動）の推進	35.3	23.9	36.8	47.2	26.9	21.0
6-1 産学官連携の推進、新たな産業の振興	32.0	24.4	38.1	60.6	12.6	20.3
6-2 企業の立地・集積の促進	33.2	26.1	35.3	60.4	13.6	19.4
6-3 地場中小企業の振興	29.1	34.0	31.8	69.3	9.7	15.1
6-4 農林水産業とその関連ビジネスの振興	36.3	28.0	30.5	69.5	9.5	15.1
6-5 若者・中高年者・障がいのある人などの就労支援	23.3	48.3	25.2	85.7	3.7	6.8
7-1 創業しやすいまちづくり	32.1	22.2	40.1	56.7	14.7	22.1
7-2 創造的な文化芸術活動がしやすい環境づくり	32.9	19.6	41.9	45.4	21.4	26.5
7-3 クリエイティブ関連産業の振興	34.7	17.6	42.2	44.0	24.0	25.3
7-4 多様な人が集まり交流・対話する創造的な場づくり	32.1	20.4	41.6	48.7	19.4	25.1
7-5 チャレンジする若者や女性が活躍するまちづくり	28.3	37.3	29.2	71.7	8.8	14.1
7-6 大学や専門学校などの高等教育機関の機能の強化	35.7	27.7	31.4	69.3	10.1	14.8
8-1 都心部の機能強化	43.7	25.6	25.2	65.2	12.9	15.6
8-2 高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり	36.0	26.3	31.6	57.1	16.7	19.6
8-3 国際的なビジネス交流の促進	32.6	21.6	39.2	57.3	14.0	21.7
8-4 物流・人流のゲートウェイづくり	40.9	24.7	28.3	67.6	10.4	15.3
8-5 グローバル人材の育成と活躍の場づくり	29.7	29.3	33.9	63.8	11.8	16.7
8-6 アジア諸都市などへの国際貢献・国際協力	33.3	19.9	40.0	53.6	17.8	21.3
8-7 釜山広域市（韓国）との連携強化、広域経済圏の形成	23.8	20.5	49.6	28.6	37.2	27.0
8-8 外国人にも暮らしやすいまちづくり	30.0	23.8	40.3	51.9	21.0	20.6

